

通告順番 10 番
 通告者 山部 良二 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 公共交通の輸送力強化について	国策により進められたT SMC進出等に伴い混雑が課題となっているJ R豊肥本線の輸送力強化に向けた協議会が開かれ、県と沿線の自治体は乗り換えの利便性向上に向けた具体的な構想をまとめ、J R九州に要望として伝える方針が新聞等で話題になっているが、要望事項の運行本数の増加等による速達性の向上を求めるのは理解できるが、複線化の具体的検討を1企業に求めるのは無理がある。今J R各社の線路や橋梁・信号等の老朽化が問題になっているし、今後起こり得る南海トラフ大地震等に備えた災害対策資金等も必要になってくる。また県では産業振興政策として半導体分野を戦略的分野と位置づけ、独自の成長戦略上の「車から公共交通への転換を促す取り組み」であれば、多くの町民が望む豊肥本線複線化を、国費による上下分離方式採用すべき。鉄道施設のうち、路盤や架線・信号システムなどは国費を投入し、地元自治体の資金拠出により複線化し、運行を鉄道事業者が担うと言う形が最善ではないか。以上を踏まえ、鉄道軌道整備法や地域公共交通再構築事業等の改正を国に要望するのが先ではないか、町の考えを問う。	町 長
2 若者・女性の支援について	石破首相の看板政策「地方創生2.0に関する政府の基本的な案」の全容が判明した。若者・女性に選ばれる地方づくりを待ったなしの課題と位置づけ、地域の魅力を高めるために、地域働き方・職場改革サポートチーム新設の具体策を打ち出した。また、地方創生の交付金を倍増する方針。これまでの取り組みの反省として、地域間・男女間の賃金格差や様々な場面にあるアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）などにより、若者・女性の地方離れが進行しており、若者・女性にも選ばれる地方、高齢者を含め誰もが安心して住み続けられる地方の構築は待ったなしと基本的な考え方を示している。以上を踏まえ、若者、特に若年女性に選ばれる具体的な政策があるのか、以上3点伺います。 （1）地域社会の生活基盤を支える行政職員の人材確保策は （2）就職を考える若者が地元企業に就職を促進するための政策は （3）若者・女性の支援、特に若年女性を地域に留められる政策が重要。町の具体策は	町 長

一般質問通告書

通告順番 10 番

通告者 山部 良二 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
3 豊かな学びの実現について	学校現場では、貧困、いじめ、不登校・教職員の長時間労働や未配置など解決すべき課題があり、子供たちの豊かな学びを補償するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが、困難な状況となっている。教員の増員や教職員定数改善が不可欠である。また保護者の働き方改革が進み、有給休暇を取得しやすくなった一方で、土日休日を休めない父親も多く、家族と過ごす時間が減っている現状がある。同僚議員からもあったら家族との時間を有意義に過ごす制度が必要ではないか。以上を踏まえ 2 点伺います。 (1) 26 年度から公立中学校の 1 学級の上限人数を 40 人から 35 人に順次下げることが決定したが、教員不足や教室不足・教員の質の低下・学習内容の均質化といった課題も指摘されているが、具体的な対策は (2) 子供の学び（ランニング）と休暇（バケーション）を組み合わせたラケーションを導入する自治体が増えている。町民から実現してほしいという声を聞いている。本町でも導入すべきではないか	教 育 長